

交流で地域の魅力を発信

■東京鮫川会ふるさと探訪ツアー  
東京鮫川会（阿久津芳雄会長）では年一回、ふるさとを訪れて村の人たちとの交流を深める「ふるさと探訪ツアー」を毎年実施しています。

ツアーには、東京鮫川会会員のほか、会員の友人・知人で毎年鮫川村を訪れているリピーターも多く参加します。今年のもふるさと探訪ツアーは、五月十三日・十四日の二日間行われ、三十人が参加しました。

初日は、鹿角平観光牧場でバーベキューを行った後、「ほっとはうす」でそば打ちを体験。夕方には村関係者とツアー参加者の夕食交流会が行われ、ふるさと談義に花を咲かせました。

二日目は、あぶくま自然大学（赤坂東野字葉貫）でピザ焼き体験を行った後、新緑の強滝と天狗橋を散策。「手・まめ・館」で昼食をとったあと、参加者は鮫川村

た。

このふるさと体験学校は、年三回（第二回は七月上旬、第三回は九月下旬に実施予定）行われ、地元の人たちとの交流から田舎で暮らすための知恵や食べ物について学ぶことを目的に昨年からは実施しています。

■第40回里山まるごと体験学校  
（東京農業大学カレッジ講座）

里山の景観を保全・維持し、地域の魅力を高めるため平成十二年度にスタートした「里山まるごと体験学校」の第四十回目の活動は、五月二十七日・二十八日の二日間行われ、東京農業大学学生など約三十人が参加しました。

今回の活動には、一般社会人を対象とした東京農大の体験型講座（カレッジ講座）の受講生も参加。初日は二班に別れ、落合地区の田植えと「ほっとはうす」近くの田んぼの土手の草刈り作業を行いました。

二日目は、あいにくの天候とな



# 都市交流

## 地域の魅力で繋がる 都市と農村

平成7年に村交流施設「ほっとはうす・さめがわ」がオープンして10年。「ほっとはうす」を拠点に村が進めてきた都市交流事業も、さまざまな分野で形を変え発展してきました。また、村を訪れる人も増え、地域の魅力を活かした交流を通して地域が元気になってきています。

今月は、先月に村内各地で行われた交流事業などを紹介し、地域の魅力を考えます。

の旬の野菜などを買い求めています。

ました。

■馬込鮫川会ツアー  
本村西山出身で東京都大田区在住の茨木勇さんが参加を呼びかけ、毎年実施している「馬込鮫川会農村体験ツアー」が五月十四日に行われ、約四十五人が参加し

今回のツアーでは、中山間直接支払交付金事業に参加している西山二区集落協定が、西山二区中山間交流実行委員会（関根勝義事務局長）を組織。水野家書院（西山字宝木）を活用し、ツアー参加者を受け入れました。一行は長井農園（渡瀬字青生

今回の体験学校には、ふるさと暮らしに興味を持つ一般の方や大学生など約三十人が参加。初日は、「ほっとはうす」近くの赤松林で管理作業や山菜料理を作り、参加者で交流会を行いました。二日目は、落合地区に移動し、田植えを体験。一本ずつ丁寧に苗を植えたあと、落合集会所で地元の人たちとの交流会を行いました。



思い思いに材料をトッピング（東京鮫川会）



「手・まめ・館」では村の「旬」を堪能（東京鮫川会）



そば打ちにチャレンジ（東京鮫川会）



袋いっぱい採れました（馬込鮫川会）



地元の素材を活かした料理（馬込鮫川会）



郷土料理に舌鼓を打つ参加者（馬込鮫川会）

つたため、環境学習館で里山の仕組みについて学習し、鈴木寛重さん（馬場）からこんにやくづくりについて指導を受けました。また、強滝遊歩道を散策しながら、遊歩道の整備も併せて行いました。

今回のカレッジ講座は、平成十八年度中に四回開催される予定で、七月には田押し車による中耕除草や遊歩道整備、十月には稲刈り、十二月には里山管理作業や餅つきなどが計画されています。



1本ずつ丁寧に田植えを行いました（ふるさと体験学校）



赤松林の管理作業（ふるさと体験学校）



山菜の天ぷら料理に挑戦（ふるさと体験学校）

もち米の苗を植える参加者（里山まるごと体験学校）



里山の景観は人の手によって作られます（里山まるごと体験学校）

**鮫川村を就業体験の場に**

東京農業大学短期大学部生物生産技術学科では、早い段階に社会を体験させることで就職に対する意識を高める就業体験（インターシップ）を実施しています。

この就業体験では、学生たちが自分で希望する分野（畜産、作物、野菜、花など）を選び、十日間現場で実習を積み重ねます。全国各地にある体験受け入れ農家の一つとなっているのが、高野博光さん（発



強滝遊歩道を散策しながら整備（里山まるごと体験学校）

地図）で、昨年からの就業体験を受け入れています。

今年五月七日から十六日の十日間、二人の学生が高野さん宅で牛の世話や田植え、きのこの植菌作業などを体験。就業体験を終えた二人に話を聞きました。

菅井大輔さん 「普段あまり経験できない貴重な体験ができたと思う。中山間地域のきれいな風景がある村で、生きていくために必要なことを学ぶことができたと思



左から今回実習を行った菅井大輔さん、(1人置いて)菅原剛さん。(ともに2年)中央は東京農大短期大学部生物生産技術学科の土地講師

う。」(談)

菅原剛さん 「村長さんに話を聞く機会があり、農業に力を入れていた村だということが分かった。高野さんが実践している安心・安全の農業を学べたのでこれから将来に生かしていきたい。普通の講義とは違って、分からないことをすぐに質問できる距離感がとてもよかった。」(談)

られます。」と直接農業に触れる就業体験の大切さを話していただきました。

**村の魅力に惹かれて**

丸山範幸さん(二十三歳)は、今春東京農業大学を卒業後、鮫川村で農業を学ぶため、村に移り住んできました。

昨年、鮫川村をテーマに卒業論文を書くため、何度も村に足を運んだ丸山さん。足を運ぶうちに村の魅力に惹かれて移住を決定しました。現在は、トラクターを使つての作業や牛の搾乳などを手伝う日々が続いています。忙しい毎日を送る丸山さんに話を聞きました。

「4月7日から鮫川村に来ています。地域の人といろいろな話をしながら、毎日楽しく過ごしています。機会があれば自分の農園を作りたいと思っていますので、見かけたらよろしくお願

ます。」(談)

また、丸山さんを受け入れている有限会社関根ファームの関根靖さんは、「丸山くんに来てもらうとかなり助かっています。まじめに働いてくれるし、ずっといてほしいですね。大学で勉強してきたことを生かしている経験が積んでもらいたいと思います。」と丸山さんに期待を寄せます。



村で農業を学ぶ丸山さん(左)と関根ファームの関根靖さん